

JAUW 茨城支部だより 2022 年度-3 号

2022 年 12 月 10 日一般社団法人 大学女性協会(JAUW)茨城支部 発行

秋の色づきも過ぎ枯葉が舞い散り始め、冬の到来を自然は教えてくれています。

11 月に、ひと・まち男女共同参画推進支援事業「女たちは”YOROI”を脱いだか? ホンネの座談会PART2」講座を対面で開催しました。このテーマでの開催は 2 回目ですが、年代別 70 代から 30 代の女性 4 名の登壇者の発表から、地域社会で時代に流されないで自分をしっかり持って生きている、輝いている女性たちの姿を見ることができました。育った時代の YOROI を脱いで新しい衣を着た女性たちの発表から多くのことを学びました。共に学び合う共感と繋がりの方が大切であることも改めて実感しました。まだまだ男性優位の社会、男女平等参画社会、ジェンダー平等の実現に向け、これからもできることから茨城支部として種を蒔いていきたいと思っています。



中学生向け副教材「みんなで目指す! SDGs×ジェンダー平等」が男女共同参画推進連携会議(事務局:内閣府男女共同参画局)から発行されています。この副教材では、「ジェンダー平等と女性のエンパワーメント」はSDGsの重要なテーマで①SDGs全体の「目的として」②17のゴールをすべて実現するための「手段」として③一つの独立した「ゴール」として(SDGs 5)、また日本では「男女共同参画社会基本法」で 21 世紀の重要課題と述べられています。日本は、ジェンダーギャップ指数が、156 カ国のなかで 120 位ととても低いです。中学生がジェンダー平等について学ぶことは、男女平等参画社会の実現のためにとても大切だと思います。男らしく、女らしくではなく、あなたはあなたのままで、わたしはわたしのままでお互いを認め合う社会になればジェンダーギャップ指数も変わるでしょう。



いよいよ今年も 1 カ月をきりました。「先今年無事芽出度千秋楽(まずはこんねんぶじ めでたくせんしゅうらく)・・・平穏無事に 1 年を終えることができた めでたし めでたし」、コロナ感染症も含め社会が落ち着かない状況の中、いろいろなことがありましたが、こうして無事に生かされていることに感無量です。

皆さま、どうぞご自愛なさって、良いお年をお迎えくださいませ。

(支部長 安藤)

YOROI を脱いで～ホンネの座談会 PART2～に登壇して

「わたしの YOROI とは」

40代を過ぎてから子供や仕事、親のことなど環境は変化していく中で、これから自分がどのように生きていきたいのか？ということをよく考えるようになりました。今回講師を受けたことで、人生を振り返る機会ができ、自分を知ることこそが今後の生きるヒントにつながるのだと感じました。今日までの歩みを振り返ると、色々と自分の気持ちに蓋をして生きてきたことに気付かされました。今回、講座で出会った女性たちは、自分の言葉をもって、自信に満ち溢れ、生き生きとしてとても輝いてみえました。

「自分の言葉」とは、経験でしか語ることができず、全ては行動を起こしてこそ得られるもの。どんな形でも一歩踏み出しさえすれば、違う世界を知ることができる。真っすぐに自分と向き合っている姿は、私に勇気と情熱を与えてくれました。そして私の YOROI とは何だったのか。それは、自分そのものでした。私はまだ YOROI を脱いでいなかったのです。今の自分を手放すこと、それは本音に向き合い、違和感を見逃さないこと。私は、色々経験してみたい。仕事を通じて、地域のコミュニティと共に、社会とのつながりを広げていきたい、そう自分の心を知ることができました。私の人生の再スタートはここからと決心することができたこの出会いに心から感謝しています。ありがとうございました。（飯塚）



「思うこと・私の思い、男女共同参画の視点から見てきたこと」

人前に立つ度に、見える景色が変わる。今日もまた会場を見渡すと圧倒的なジェンダーバランスと落胆しながらも、それでもマイクを取るのは、私自身が女として生まれてきた自分を自分が肯定的したいからだ。

対外的には先進的な家庭ではあった封建的な父とジェンダー感度の高い母に育てられた私は意見を持つこと、選択肢の幅を広げることを学生時代に培ってきたことで自分が「女の子」とであるというのは、毎月の腹痛と鮮血を見る時以外さほど意識することはなかった。だが 24 歳で親になった瞬間に踏み込んだ「母親」という役割の中にはそれまで共に生きていた自分の名前よりも、良き妻・良き母・良い嫁という輪郭は臃げだが、皆の頭の中に存在する理想的な「母親像」というものにどうにか自分を当てはめようと必死だった。社会の中で求められる振る舞いと家族のケアを常に第一優先にする日常に窮屈さを感じながらも、私さえ我慢すればこの日常がうまく回るとはじめての経験に戸惑いながらもその虚像の枠に適應しようと挑んでいたのだ。これがもし私にとっての YOROI であるとしたら、実体のないこの女神像は一体なぜ生まれて、なぜこんなにも私たち女性を没個人としてイエの中にも留めようとするのかと、子供の成長と共に図書館で選び取るリストは児童書からいつの間にか社会学の列に足が向くようになったのが、私がここに辿り着いた大きな分岐点であつたろう。



時代や生活様式が変わり女性の生きる選択肢が増え、今は仕事を持つことは個人のアイデンティティであり、女性が社会の中で働くことは国家として推奨する一大プロジェクトである一方で「女性」として社会から求められる固定的な性別役割分業意識や昭和的な価値観や慣行を越えていけるか。この国がこのまま加速度的に落ちるか飛躍するかは私たち一人ひとりの意識と共に制度設計に女性の視点がどれだけ組み込まれるかが大きな分岐点になることは間違いない。（高橋）

2022 年度「公開シンポジウム」参加報告～変化を恐れない歩みを～

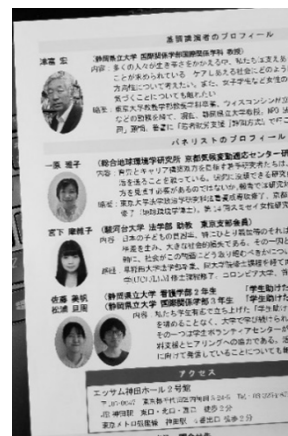
大学女性協会では、従来から 2 年サイクルでの取り組みを継続してきました。1 年目の「公開シンポジウム」でメインテーマの下に基調講演において発題を行い、その内容を受けて活動を展開した支部や委員会等が、次年度の「全国セミナー」において具体的に検証した活動内容を発表します。変化の激しい昨今に在っては俯瞰的なテーマを掲げ、その年度の特徴はサブテーマで表現するのが適切、との方針を取ってきました。

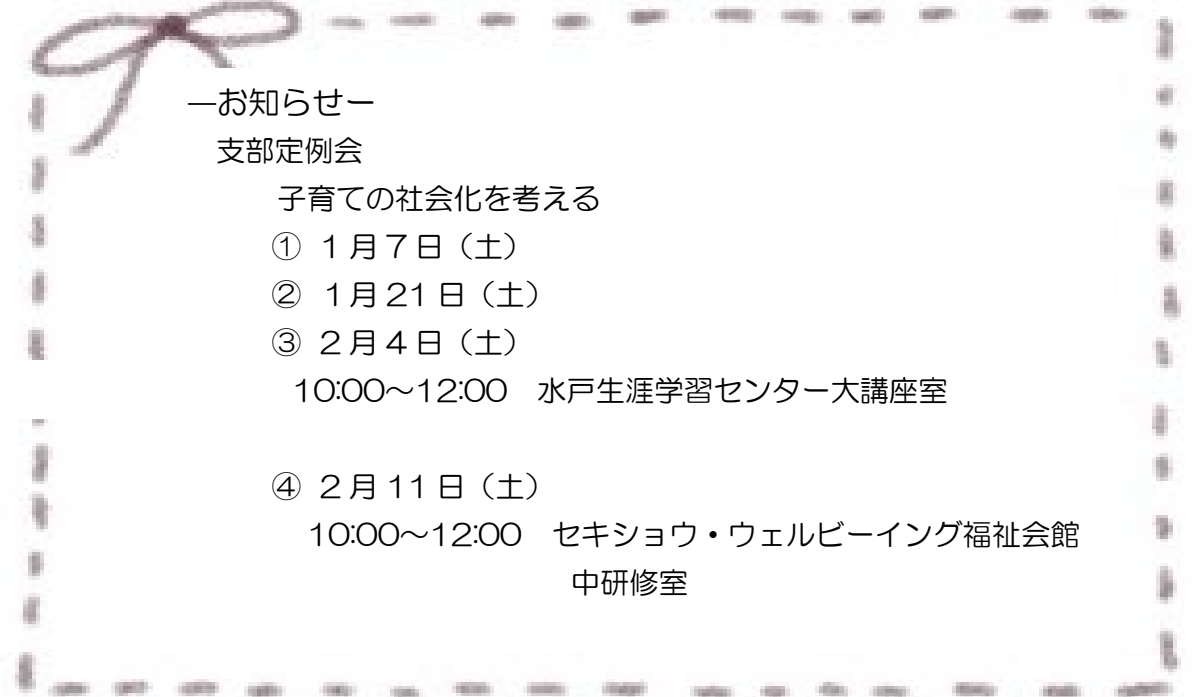
今年度のメインテーマは、2018 年度から掲げてきた「教育・ジェンダー・共生」を継続、サブテーマとして「ユースの視点から見直そう これからの日本」が掲げられました。静岡県立大学国際関係学部教授の津富宏教授による基調講演では、「ケアしあう社会をつくる」とのテーマで、生きづらく社会的排除が進む時代に在って、ケアの意味を見直そう、より広く社会的包摂概念としての「ケア」の意を社会福祉政策をも含むものに広く解釈し、ケアし合うコミュニティを作っていくことだと説かれました。「問題がある処から浸みわたりながら浸透し関係性を作り出す」、「包摂は中から始まる」などの表現に、市民民主主義の本意を感じました。また、とにかく上下関係に陥りがちな当事者と支援者との切り分けず、対等な関係で互いに助け合う関係性が大切だとの語りでは、「ケアしあうコミュニティ」の意味に心から納得がいきました。社会的排除の進行を危惧するスウェーデンの政治学者の理論「ペストフの三角形」や、一方的な社会のラベリングを壊していく「クリップ理論」、NGO 活動出身の岸本聡子杉並区長の「ミュニシパリズム」、また、リーマンショック後に起こったスペインのバルセロナモデル「社会的連帯経済」などの事例を挙げ、「静岡方式」として知られる就労支援の背景となる概念を語って頂きました。

基調講演による発題を受けて、大学内の困窮する学生支援に携わるユースのお二人からは、「貧困」は個人の努力不足ではなく社会の構造的な問題と捉え、貧困対策を最優先課題とするユースによる支援活動が提示され、また若い研究者からは、支援制度の形骸化がある、被支援者の現状に合った寄り添う制度内容にするべきではないか、等などの主張がありました。それらを受けて JAUW としては、NGO としてどのような動きに舵をとるかが求められたと思います。

JAUW にどのような支援を望むかとのフロアからの質問に、登壇者からは、「提言を行ってほしい」との回答がありました。団体内の高齢化が進み直接的な支援は困難であり二次支援しか望めない現状を見ての回答だと思いました。今後もユースの考えを傾聴する機会を設け、私たちに浸み込んだ価値観の捉え直しをする機会の設定が求められていくと感じました。

(城倉)





—お知らせ—

支部定例会

子育ての社会化を考える

① 1月7日（土）

② 1月21日（土）

③ 2月4日（土）

10:00～12:00 水戸生涯学習センター大講座室

④ 2月11日（土）

10:00～12:00 セキショウ・ウェルビーイング福祉会館
中研修室



新年会のお知らせ

新年会を下記の通り開催します

日時：2023年1月28日（土） 11:30～

場所：京成ホテル

会費：3500円

講話：「国連で発表して」

水戸市男女平等参画課 課長 石塚 美也 氏

※残念ながらコロナが完全におさまることは期待できませんが
皆様是非ご参加ください



◎編集後記

11月13日の「YOROIをぬいで…」に参加して感じたのは、どの年代の方も非常に活動的だということです。コロナ禍で不自由になったことありますが、様々な大学の公開講座をはじめリモートで学べる講座が本当に多くなりました。交通費の負担もなく様々な分野について学べるのは嬉しいことです。これからでも遅くはない、学びそしてチャレンジしていこうと改めて思いました。（夢見る昔少女）